

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700130	事業の開始年月日	平成21年12月1日
		指定年月日	平成21年12月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜市ヶ尾		
所在地	(〒225-0025) 神奈川県横浜市青葉区鉄町1224		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度から始めたオレンジカフェを充実させることが、今年度の課題でしたが、この3月からは、新型コロナウイルスへの感染予防策として、ご家族や地域の方々を招いての行事は、すべてを中止としています。
近隣の方から、出勤時に声を掛けられることもあり、玄関先で入居や介護の相談を受けています。
いつでも気軽に訪ねられる施設として、多くの方のお役に立てる様、日々心掛けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年11月9日	評価機関 評価決定日	令和2年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇コロナ禍での地域住民との交流 ・今年度は、新型コロナへの対策として地域住民との交流は控えているが、例年は地域包括支援センターと協力して開催する「認知症カフェ」で、地域の住民と利用者が一緒に体操やお茶を楽しみ、地域の夏祭りや防災訓練には職員と一緒に利用者も参加している。今年も事業所には、収穫した季節の野菜や花が届けられ、地域の人たちが介護についての相談にも訪れている。 ◇安全管理体制の充実 ・利用者ごとに、ヒヤリハット事例を収集し、3か月ごとに「転倒リスクアセスメント」を行い、一人ひとりの状況に合わせ、安全に配慮して支援に当たっている。 また、安全な環境を整備するため、年1回、全職員が「施設内危険箇所点検」を行い、改善策を検討して事故防止に努めている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇事業所のブログが、利用者の様子を伝えるほか、利用者ごとに毎月「一言通信」を発行し、また、添付した写真にコメントを付けて、近況を家族に報告している。 ◇職員の特技・経験を活かした社交ダンスや園芸、折り紙作りなどを利用者と共に実施して、利用者の生活に彩りを添えるとともに、職員のモチベーションの維持につなげている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○ 4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			○ 2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここで聴き ところで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げ入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・開所10年目の昨年度、職員の意見をもとに「事業所理念」を新たに作り、玄関ホールや各ユニットの事務室に掲示している。 ・職員は明るく穏やかな接遇に努め、傾聴や細やかな観察で利用者の思いを汲み取り支援している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや町内会の行事が新型コロナウイルスの影響で中止となっていますが、職員は出勤時など距離をとって近隣の方と会話しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域住民との交流が制限されているが、例年は利用者とともに、地域の夏祭りや防災訓練に参加し、事業所内で開く認知症カフェで、利用者は近隣の参加者と交流している。 ・地域住民が、野菜や花を差し入れ、介護の相談に訪れている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で現在は中止していますが、オレンジカフェを開催し、認知症の方と触れ合うことによって地域の方に理解していただける場を、設けています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月以降、新型コロナウイルスの影響により会議は中止とし、各メンバーに報告書を送り、運営状況、取組み等を報告し、意見の返信を求め、サービス向上に活かしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、2か月に1回、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員と家族が参加して開催している。今年度は、メンバーに活動報告を送り意見をいただいている。 ・町内会の提案で、事業所入口付近に町内会掲示板を設置し、事業所の情報発信にも活用している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響で会議は中止となっていますが、青葉、緑ブロックのグループホーム連絡会からのアンケートなどで情報交換しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・例年は、運営推進会議録を区高齢支援課に持参し、協力関係を築いている。職員が、区開催の感染症研修に参加している。 ・運営推進会議メンバーの地域包括支援センター職員は、認知症カフェの開催でも協力している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一度の身体拘束会議と年に2回事業所内で職員研修を行っています。身体拘束チェックシートを居室担当者が作成し、定期的に職員間でチェックしています。	・2か月ごとに全職員にて「身体拘束廃止委員会」を開くほか、年2回、職員研修を実施して、身体拘束禁止の意識を共有している。 ・3か月ごとにチェックシートで、個々の利用者に不適切な拘束を行っていないか確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一度虐待防止会議を行い、職員同士で話し合い、確認を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で行われる研修などに参加し会議等で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は家族会等で説明し理解を得ています。入退居は本部と管理者が連携し行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の日頃の要望やご家族の意見等は職員全員で共有し、全体会議で運営に反映するための話し合いを行っています。	・利用者とは、穏やかに話して意見を聞き、家族とは、面会時に話しかけて要望を聞いている。今年は、家族会を休止し、電話で家族の意見を聞き取った。 ・家族の意見から、玄関ホールに顔写真付きの職員紹介パネルを掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議、フロアー会議での意見交換や、年に2回の個別面談、日頃から会話の中で提案を聞き反映させています。	・管理者は、職員との日頃の会話から意見を把握するほか、会議前に職員から提案事項のメモの提出を受け、会議で検討している。 ・事業所理念の見直しや、現状に合わせた業務手順の変更など、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1回行われる事業所長会議や適時担当SVに報告しより良い職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には職員に声掛けし参加を促してしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会のアンケート交換などで、同業者と交流をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活になじめるよう職員が積極的に話しかけ、安心して頂ける様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの要望、相談には迅速に対応し、来設時には話しやすい雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望が叶えられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がいきいきと暮らしていけるよう一緒に作業をしたり、会話したりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来設時にはご入居者様の日々の様子をお伝えし、ご本人を交えて会話しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会が中止となっておりますが、お電話、お手紙などで交流しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策で、家族・知人との面会はエントランスのベンチなどで短時間とし、電話や手紙での関係継続を支援している。 ・毎月、家族へ利用者の近況報告書「一言通信」を送り、事業所ブログで本人の様子を伝えている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上でお手伝いを一緒にして頂いたりレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も気軽にお電話頂けるよう退居時にお話ししています。相談があれば支援しています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の会話の中から聞き取れるよう努めています。言葉が出ない方に関しては表情、仕草から読み取っています。情報は職員同士で共有し、ケアプランに反映しています。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は利用者に穏やかに声かけし、話しやすい雰囲気づくりに努め、会話の中から思いを汲み取っている。困難な場合は、表情や態度から意向の把握に努めている。 把握した利用者の思いや意向は、申し送りや会議で職員間で共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方などを知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や表情、会話、仕草などから心身状態を把握し、変化等に対応出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師、マッサージ師等の助言を受けています。職員の意見も取り入れ現状に沿った介護計画を作成しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント記録をもとに、利用者・家族の要望、医療関係者の意見を参考にカンファレンスを行い、原則6か月ごとに介護計画を作成している。 ・居室担当者が、3か月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスの資料としている。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかナンバリングする事で確認しています。変化がみられるときは職員同士で話し合い、介護計画や実践方法の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所や他事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方に施設行事に参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に御家族が希望される場合は外部のかかりつけ医に受診していただいています。外部の情報は提供していただいています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族の合意のもと、全員が事業所の協力医をかかりつけ医とし、月2回訪問診療を受けている。専門医への通院は原則家族が同行し、受診報告書で情報共有している。 ・希望により協力歯科医の訪問診療や口腔ケアを受けている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう、相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し病院に提供しています。病院に電話や訪問し状況提供や相談を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、ご家族と早めに相談をしご本人やご家族様が方針を決められる様説明、話し合いを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重度化した際の事業所方針を説明し、重度化の段階ごとに医師、職員、家族で話し合っって対応している。なお、管理者は、職員や家族の精神的ケアに配慮し対応している。 ・終末期対応マニュアルを備え、年1回看取り研修を実施している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画に基づき避難訓練、防災訓練を定期的に行っています。指定避難所の鉄小学校の防災訓練に毎年参加していますが今年は新型コロナウイルス対策で中止しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練(うち1回は夜間想定訓練)と年1回の水害対策訓練を実施している。 ・飲料水・食料(缶詰、レトルト食品など)は、1週間分備蓄しリストを作成して管理している。 	事業所の避難訓練に、地域住民の参加が得られるよう、運営推進会議を活用して、引き続き地域への働きかけを行うことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほかに、表情や態度にも気を配りプライバシーを守る介護を心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、日頃から利用者に優しく、笑顔で接するよう職員を指導している。 ・接遇・礼儀（マナー）マニュアルがあり、職員は、食事・トイレ・服薬等介助場面で利用者の人格尊重、プライバシー確保に留意している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るよう心掛けています。自己決定」ができるよう選択しやすい環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で決められた時間以外はご本人のペースで過ごされています。散歩、外気浴は希望に沿って行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすいようタンスに種類別にしまい表示を付けています。着替える時に一緒に洋服を選んでいきます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	説明や言葉かけを行いながら一緒に食事を楽しんでいます。食事の好みについては食べ方や残したものを観察し把握しています。食器拭きなどもして頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は業者に委託し、献立は法人本部作成の共通メニューで、調理は専任の職員が担当している。なお、献立には旬の食材や行事食、ご当地メニューを取り入れている。 ・利用者は、すすんで、盛り付けや後片付けを手伝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録し必要量摂取できるように確認しています。容器や補助具を活用し摂取しやすいよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の助言のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけて個々の排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導を行い、失禁を防いでいます。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。 職員は、利用者が失禁したときには周りの人に気付かれないよう、優しく声掛けをしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促す様になっています。排便チェック表で排便状況を把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し安全な入浴を心がけています。予定は組んでいますがご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は週2回、午後を基本に利用者の希望により調整している。 利用者は、職員との会話や歌で気分を和らげ、入浴剤や菖蒲湯、ゆず湯に寛いで入浴している。 リフト付き浴槽を設置し、車椅子・寝たきり利用者も安全に、入浴できるよう配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自身の好きな時間にとり取っています。介護度の高い方は疲れない様に職員が時間を配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を必ず行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状況を提供し相互に確認しています。変化があった時は医師に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたい事、得意な事をして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたりご自身の好きな事をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩を行っています。普段はご本人のご希望をご家族にお伝えし、外食やお出かけ等の支援をしています。新型コロナウイルスの影響で外出は控えています。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍で、外出の機会が減ってきているが、施設近くの川沿いの道を散歩したり、玄関前のベンチで外気浴をし、畑の野菜や花壇の鑑賞をしている。 ・家族が同行する美容院、墓参りや事業所の車を使った遠出などは、現在行われていない。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は物盗られの症状がある方がおられ、トラブル防止のため金銭の所持は控えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキなどが届いた際には職員と一緒に返事を書いています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面には入居者様と一緒に作った季節の飾りつけや日頃の様子を撮った写真を貼っています。危険がないような配置を心掛けています。	・リビングは明るく、室内の温湿度は、利用者が快適に過ごせるよう適切に調整管理している。冬期は、加湿器を使用している。 ・壁には、利用者が作成した季節感ある飾り付けや写真を貼り、心地よく過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置きくつろげる空間を作っています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や飾り物、思い出の品などを持ち込んでいただき心地よく過ごせるよう配慮しています。	・利用者は、居室に仏壇やテレビ、縫いぐるみなど、馴染みのものを持ち込んでいる。 ・職員は週1回、リネン交換に合わせて、利用者と一緒に室内清掃を実施している。 ・居室にはベット、エアコン、タンス、洗面台が設置されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフロアには時計やカレンダーを掛けて季節や時間がわかるようにしています。			

事業所名	グループホームみんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころで聴き こころで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げ入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや町内会の行事が新型コロナウイルスの影響で中止となっていますが、職員は出勤時など距離をとって近隣の方と会話しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で現在は中止していますが、オレンジカフェを開催し、認知症の方と触れ合ってもらく事によって地域の方に理解していただける場を設けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月以降、新型コロナウイルスの影響により会議は中止とし、各メンバーに報告書を送り、運営状況、取り組み等の報告をし、意見の返信を求め、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響で会議は中止となっていますが、青葉、緑ブロックのグループホーム連絡会からのアンケートなどで情報交換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一度の身体拘束会議と年に2回事業所内で職員研修を行っています。身体拘束チェックシートを居室担当者が作成し、定期的に職員間でチェックしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一度虐待防止会議を行い、職員同士で話し合い、確認を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で行われる研修などに参加し会議等で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は家族会等で説明し理解を得ています。入退居は本部と管理者が連携し行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の日頃の要望やご家族の意見等は職員全員で共有し、全体会議で運営に反映するための話し合いを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議、フロアー会議での意見交換や、年に2回の個別面談、日頃から会話の中で提案を聞き反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1回行われる事業所長会議や適時担当SVに報告しより良い職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には職員に声掛けし参加を促してしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会のアンケート交換などで、同業者と交流をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活になじめるよう職員が積極的に話しかけ、安心して頂ける様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様からの要望、相談には迅速に対応し、来設時には話しやすい雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望が叶えられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様がいきいきと暮らしていただけるよう一緒に作業をしたり、会話したりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来設時にはご入居様の日々の様子をお伝えし、ご本人を交えて会話しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会が中止となっておりますが、お電話、お手紙などで交流しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上でお手伝いを一緒にして頂いたりレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も気軽にお電話頂けるよう退居時にお話ししています。相談があれば支援しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の会話の中から聞き取れるよう努めています。言葉が出ない方に関しては表情、仕草から読み取っています。情報は職員同士で共有し、ケアプランに反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方などを知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や表情、会話、仕草などから心身状態を把握し、変化等に対応出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師、マッサージ師等の助言を受けています。職員の意見も取り入れ現状に沿った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかナンバリングする事で確認しています。変化がみられるときは職員同士で話し合い、介護計画や実践方法の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所や他事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方に施設行事に参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に御家族が希望される場合は外部のかかりつけ医に受診して頂いています。外部の情報は提供していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう、相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し病院に提供しています。病院に電話や訪問し状況提供や相談を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、ご家族と早めに相談をしご本人やご家族様が方針を決められる様説明、話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画に基づき避難訓練、防災訓練を定期的に行っています。指定避難所の鉄小学校の防災訓練に毎年参加していますが今年は新型コロナウイルス対策で中止しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほかに、表情や態度にも気を配りプライバシーを守る介護を心掛けています。それぞれの性格に合わせて言葉かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るよう心掛けています。自己決定」ができるよう選択しやすい環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で決められた時間以外はご本人のペースで過ごされています。散歩、外気浴は希望に沿って行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすいようタンスに種類別にしまい表示を付けています。着替える時に一緒に洋服を選んでいきます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	言葉かけを行いながら一緒に食事を楽しんでいます。食事の好みについては食べ方や残したものを観察し把握しています。盛り付けや食器拭きなどもして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録し必要量摂取できるように確認しています。容器や補助具を活用し摂取しやすいよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の助言のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけて個々の排泄パターンを把握し、適時に言葉がけを行い、失禁を防いでいます。排便をお伺いする時の言葉がけにも充分配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促す様にしています。排便チェック表で排便状況を把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し安全な入浴を心がけています。予定は組んでいますがご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自身の好きな時間に取って頂いています。介護度の高い方は疲れない様に職員が時間を配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を必ず行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状況を提供し相互に確認しています。変化があった時は医師に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたい事、得意な事をして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたりご自身の好きな事をして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩を行っています。普段はご本人のご希望をご家族にお伝えし、外食やお出かけ等の支援をしています。新型コロナウイルスの影響で外出は控えて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は物盗られの症状がある方がおられトラブル防止のため金銭の所持は控えて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキなどが届いた際には職員と一緒に返事を書いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面には入居者様と一緒に作った季節の飾りつけや日頃の様子を撮った写真を貼っています。危険がないような配置を心掛けています。室温にも配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置きくつろげる空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と話し合いながら家具や飾り物、思い出の品などを持ち込んでいただき心地よく過ごせるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフロアには時計やカレンダーを掛けて季節や時間がわかるようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜市ヶ尾

作成日 令和2年11月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防訓練時に地域住民が参加していない。 参加依頼はしているが、日程が合わない。	地域住民に消防訓練に参加してもらう。	今までも運営推進会議などで参加を呼びかけていた。 引き続き声掛けし、参加をお願いしていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。